



# 営農タイムリー！



## 今後注意すべき病害虫

2021年9月14日発行

### 1. トマト黄化葉巻病及びトマト黄化病

京都府病害虫発生予察第7号より抜粋

**トマト黄化葉巻病**は、黄化葉巻ウイルスにより引き起こされる病気で、症状は、先端部の葉が内側に巻く、葉縁が黄化、株の萎縮等で、タバココナジラミによって媒介される。

**トマト黄化病**はトマト退縁ウイルスの感染により引き起こされる病気で、症状は葉の一部の葉脈間が退緑及び黄化し、生理障害の苦土(マグネシウム)欠乏の症状に類似し、タバココナジラミ及びオンシツコナジラミによって媒介される。府内での発生を本年6月に初確認している。

#### ● タバココナジラミ

タバココナジラミは世界中に分布し、多くのバイオタイプ(形態的な区別が難しく、遺伝的、生物学的に異なる系統)が存在する。本州では、在来系統(バイオタイプJpL,等)、バイオタイプB、バイオタイプQが確認されている。

バイオタイプQは薬剤感受性が低く難防除害虫であるので、以下の3点を防除対策の基本事項として、防虫ネットや黄色粘着ロール及び農薬等を組み合わせた「総合的害虫管理」が有効となる。

- ・ 施設内にコナジラミを「**入れない**」。
  - (1) 開口部の防虫ネット被覆。
  - (2) 黄色粘着ロール(スマイルキャッチ等)の展張、設置。
  - (3) 近紫外線カットフィルムの使用。
- ・ 施設内・施設周辺のコナジラミを「**増やさない**」。
  - (1) 発生初期の防除の徹底。
  - (2) 薬剤のローテーション防除の実施。
  - (3) 天敵や微生物農薬の有効利用。
- ・ 施設内からコナジラミを施設外に「**出さない**」。
  - (1) 開口部の防虫ネット被覆。

タバココナジラミ成虫



タバココナジラミ幼虫

# ■ トマト コナジラミ類の防除体系 例

育苗期に

定植時に

28

**ベシマークSC**

[400株あたり25ml  
/ 400株あたり10~20L  
(1株あたり25~50ml)  
/ 育苗期後半~定植当日 / 1回]

OR

1B

**ジェイエース** 粒剤

(オンシツコナジラミ)

[3~6kg/10a(1~2g/株)  
/ 作条散布又は植穴処理 / 1回]

28

**プロロン** 粒剤

[2g/株 育苗期後半~定植時  
/ 株元散布 / 1回]

発生が認められたら

29

**ウララDF**

30

**グレースシア** 乳剤

[2000倍 収穫前日まで / 3回]

[2000倍 収穫前日まで / 2回以内]

4A

**アクタラ**

[2000倍 収穫前日まで / 3回]

**アビマイヤー** 顆粒水剤

[5000~10000倍  
収穫前日まで / 2回]

**アビマイヤー フロアブル** [4000倍 収穫前日まで / 2回]

**スタークル** 顆粒水剤

[2000~3000倍  
収穫前日まで / 2回]

**ベストガード** 水剤

[1000~2000倍  
収穫前日まで / 3回]

**ダントツ** 水剤

[2000~4000倍 収穫前日まで / 3回]

**モスピラン**

[2000倍 収穫前日まで / 3回]

28

**ベネビアOD**

[2000倍 収穫前日まで / 3回以内]

**ヨーバルフロアブル**

[2500倍 収穫前日まで / 3回]

## ローテーション散布

23

**モベントX** フロアブル

[2000倍 収穫前日まで / 3回以内]

5

**ディアナsc**

[2500倍 収穫前日まで / 2回以内]

6

**アグリメック**

[500~1000倍  
収穫前日まで / 3回]

**アニキ** 乳剤

[1000~2000倍  
収穫前日まで / 3回]

**アフーム** 乳剤

[2000倍 収穫前日まで / 5回]

4C

**トランスフォーム** フロアブル

[1000~2000倍 収穫前日まで / 2回]

9B

**コルト** 顆粒水剤

[4000倍 収穫前日まで / 3回]

## 2. オオタバコガ、タバコガ

8月第3半旬現在、現在、府内のフェロモントラップへの誘殺数は亀岡市のオオタバコガで平年比多く、他はほぼ前年並みである。これらの害虫は発生が多くなると、大きな被害になるので注意する。

特にナスやトマト等の果実に食入すると薬剤の効力が低下するので、早期発見に努め、食入前の防除に留意する。

### ナス科野菜の害虫

#### ● オオタバコガ

**形態**：成虫は体長約20mm、開張約40mmで全体黄褐色で黒褐色の線や斑紋がある。老熟成虫は体長35～40mmで体色は淡緑色、緑褐色、黄褐色など変異が多い。タバコガによく似ている。

**生態と被害**：年3～4回の発生で、夏期が高温少雨の年に発生が多い。被害は盛夏から初秋にかけてが多い。産卵は1個ずつ植物体に産み付けられる。蛹で休眠することが知られており、蛹越冬と考えられる。寄主範囲は広く、ウリ科、ナス科、アブラナ科その他多くの野菜、花卉を食害し、特に果菜類の場合には果実内に潜り込むため被害はきわめて大きい。

**防除のポイント**：

- 被害果は放置せず、摘みとって処理する。
- 幼虫の食害が見られたら、ふ化幼虫を対象に防除を行う。



蛹



成虫

# ■ ナス オオタバコガの防除体系 例

発生が認められたら

I: 5 **ディアナ** SC [2500~5000倍  
収穫前日まで/2回]

I: 6 **アフームエクセラ**  
顆粒水和剤  
I: 15 [アフーム+マッチ]  
[1500倍 収穫前日まで/2回以内]

I: 6 **アフーム** 乳剤  
[2000倍 収穫前日まで/2回]  
**アキ** 乳剤  
[2000倍 収穫前日まで/3回]

## ローテーション散布

I: UN **プレオフロアブル**  
[1000倍 収穫前日まで/4回以内]

I: 15 **コテツ** フロアブル  
[2000倍 収穫前日まで/4回以内]

I: 28 **フェニックス**  
顆粒水和剤  
[2000~4000倍 収穫前日まで/3回以内]

**プレバソ**  
フロアブル S  
[2000倍 収穫前日まで/2回以内]

**ヨーバル** フロアブル  
[2500~5000倍 収穫前日まで/3回以内]

I: 30 **グレースィア** 乳剤  
[2000倍 収穫前日まで/2回]  
(賀茂なす・水なすでは薬害が生じる恐れがあるので使用しない)

### 3. 軟腐病(キャベツ、ハクサイ、カブなど)

発生すると大きな被害となるので予防防除に努める。

#### 発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) ほ場の排水に努め、雨水が停滞しないようにする。施肥はチツソ過多にならない様に注意する。
- (2) 台風等の風雨による傷や泥のはね上げにより発病が助長される。また、キスジノミハムシ、コオロギ等食葉性害虫の食害痕から細菌が侵入して発病することが多い。
- (3) 台風等による強い降雨の後や害虫の食害が目立つ場合は、早期防除に努める。

#### キャベツ

#### ● 軟腐病

**病徴と診断**：結球が始まった後に、結球頭部あるいは地際部が侵されて、べとべとに腐敗する。また、外見は健全に見えても、球を切ってみると、内部の葉や茎のずいが侵されていることがある。本病の腐敗部からは独特の悪臭を発する。

#### 伝染経路と

**発病条件**：病原細菌は宿主植物の根圏土壤中に生存し、傷口から侵入する。害虫の食痕も侵入口としての役割を果たしている。本細菌は高温を好み、生育適温は30℃前後である。したがって、高温期に結球させる作型で被害が大きい。

#### 防除のポイント：

- 発生が予想される作型では予防散布につとめる。細菌性の病害は一般に発生が多くなってからでは、薬剤の効果が低下する。
- 耕種的には畑の排水をよくする。



発病株(初期)



発病株

# キャベツ 軟腐病 登録薬剤

2021.9月現在

成分系	FRAC コード	薬剤名	病害虫草名	希釈倍数 使用薬量	使用時期	本剤の 使用回数	成分別 総使用回数
ヘキソピラノ ン抗生物質 無機化合物	24(D3) M01(M)	<b>カスミンボルドー</b> (銅パーシム水和剤) 〔カスミン+銅〕	黒斑細菌病 <b>軟腐病</b> 、黒腐病	1000倍	収穫7日前まで	4回以内	4回以内:-
カルボン酸	31(A4)	<b>スターナ水和剤</b>	<b>軟腐病</b> 黒斑細菌病	1000倍	収穫7日前まで	3回以内	3回以内
カルボン酸 ヘキソピラノ ン抗生物質	31(A4) 24(D3)	<b>カセット水和剤</b> 〔スターナ+カスミン〕	黒斑細菌病 黒腐病、 <b>軟腐病</b>	1000倍	収穫7日前まで	3回以内	3回以内:4回 以内
カルボン酸 その他	31(A4) M01(M)	<b>ナレート水和剤</b> 〔スターナ+有機銅〕	黒腐病 <b>軟腐病</b>	800倍 800~1000倍	収穫14日前まで	3回以内	3回以内:3回 以内
グルコピラノ ン抗生物質	U18(U)	<b>バリダシン液剤5</b>	株腐病、黒腐病 <b>軟腐病</b>	800倍	収穫7日前まで	5回以内	5回以内
有機 銅	M01(M)	<b>オキシンドー水和剤80</b>	黒腐病、 <b>軟腐病</b>	1000倍	収穫14日前まで	3回以内	3回以内
		<b>ドクリンフロアブル</b>	黒腐病 <b>軟腐病</b>	500~1000倍 800~1000倍	収穫14日前まで	3回以内	
無機 化 合 物	M01(M)	<b>ヨネポン水和剤</b>	アブラムシ類 べと病、黒腐病 <b>軟腐病</b>	500倍	収穫7日前まで	5回以内	5回以内
		<b>コサイド3000</b>	野菜類	2000倍	-	-	-
			褐斑細菌病 黒腐病 <b>軟腐病</b> 斑点細菌病				
		<b>ドイツボルドーA</b>	黒斑細菌病 黒腐病	500倍	-	-	-
			野菜類 べと病、 <b>軟腐病</b>	500~1000倍			
		<b>ICボルドー66D</b>	野菜類 <b>軟腐病</b>	100倍	-	-	-
<b>Zボルドー</b>	野菜類 べと病、 褐斑細菌病 黒斑細菌病 黒腐病 <b>軟腐病</b> 斑点細菌病	500倍	-	-	-		

## 4. ハイマダラノメイガ〔ダイコンシンクイムシ〕 (アブラナ科)

発生初期に加害されると欠株等が生じ、大きな被害となるので注意する。

### 発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 8月下旬以降、10月下旬頃まで発生する。
- (2) 株の成長点部を食害するため、被害株は生育が停止したままとなったり、枯死するものが多い。
- (3) 苗床や定植直後によく観察し、発生を認めたら直ちに防除する。
- (4) は種直後から寒冷しゃ等で被覆を行い、産卵を防ぐ。

### アブラナ科野菜の害虫

#### ● ハイマダラノメイガ (ダイコンシンクイムシ)

ダイコン、ハクサイなどの成長点を食害する。

- 形態** : 成虫は翅の開張16mm前後で、灰褐色をしている。卵は1粒ずつ発芽したばかりのものに好んで産む。幼虫は成長すると体長14mm位となり、淡黄色の縦線が5～6本見られる。
- 生態と被害** : 普通4～5回発生であるが、6回発生することもある。越冬は加害作物の根ぎわで細長いマユの中で4～5齢幼虫で行う。5月中旬頃から出現し、8月に最も多くなる。一般に高温、少雨の年に多発する。発芽直後の被害は欠株となり、本葉3～4枚頃の加害では生長が止まり、奇形株となる。

#### 防除のポイント:

- 8～9月の高温、乾燥の時や、早まきのものに多発する。本葉1～2枚の頃から防除する。



幼虫

# ■ キャベツ

## チョウ目害虫(ハイマダラノメイガ等) 防除体系 例

育苗期に

定植時に

OR

I:28 **ベリマーク<sup>SC</sup>**

[400倍 育苗期後半～定植当日  
/灌注 / 1回]

I:28 **プリロツソ<sup>粒剤</sup>**

[1g/株 育苗期後半～定植時  
/株元散布 / 1回]

発生が認められたら

I:11A **エゴスタ<sup>BT</sup>**

[1000倍 発生初期但し、収穫前日まで / -]

**エスマルク<sup>DF</sup>**

[1000倍 発生初期但し、収穫前日まで / -]

I:5 **ティアナ<sup>SC</sup>**

[2500～5000倍  
収穫前日まで / 2回]

I:6 **アフーム<sup>乳剤</sup>**

[1000～2000倍  
収穫3日前まで / 3回以内]

**アニキ<sup>乳剤</sup>** [1000～2000倍  
収穫3日前まで / 3回以内]

I:UN **プレオフロアブル**

[1000倍 収穫7日前まで / 2回以内]

### ローテーション散布

I:6 **アフーム<sup>エクセラ<sup>顆粒水和剤</sup></sup>**

[アフーム+マッチ]  
[1000～1500倍  
収穫7日前まで / 3回以内]

I:15 **コテツ<sup>フロアブル</sup>**

[2000倍 収穫前日まで / 2回以内]

I:28 **ベネビア<sup>OD</sup>**  
[2000～4000倍 収穫前日まで / 3回以内]

**フェニックス<sup>顆粒水和剤</sup>**  
[2000～4000倍 収穫前日まで / 3回以内]

**プルバソ<sup>フロアブル</sup>** [2000倍 収穫前日まで / 3回以内]

**ヨーバル<sup>フロアブル</sup>**  
[2500～5000倍 収穫前日まで / 3回以内]

I:30 **グレーシア<sup>乳剤</sup>**  
[2000～3000倍 収穫7日前まで  
/ 2回以内]

**プロフレア<sup>SC</sup>** [2000～4000倍  
収穫前日まで / 3回以内]

I:21A **ハチハチ<sup>フロアブル</sup>**  
F:39(C1)

[1000倍 収穫14日前まで  
/ 2回以内]



## 5. ネギ ベと病

本年は、早春から発生し、府内各地で発生を認めた。盛夏期の高温により発生は一旦終息しているが、ほ場にすき込まれた罹病残さ等が感染源となり、気温が20℃を下回る10月中旬以降は、病原菌の活動が再び活発になるので、発生には十分注意する。

### ネギの病害

#### ● ベと病

**病徴と診断**：初めに葉・花梗に紡錘形の黄白色・大型病斑を形成し、灰白色の薄いカビを生じる。その後カビは暗褐色～暗紫色になる。病斑部の周縁は明瞭で、病勢が進むと黄白色～灰白色となり葉枯れを生じ枯死する。

#### 伝染経路と

**発病条件**：病原菌は被害植物とともに菌糸、卵胞子の形で越冬する。翌年、気温が上昇し、降雨があると分生胞子を生じ伝染する。4～5月、10～11月頃に雨が連続すると多発する。

#### 防除のポイント：

- 苗床は薄まきにし、肥料を多く施用しない。
- 薬剤防除は発病前に重点をおき、薬液が付着しにくいので展着剤を加用する。



# ■ ネギ ベと病の防除体系 例

発病前は

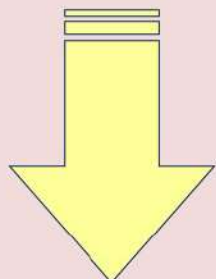
I: UN  
F: M03(M)

**ペンコゼゴ**フロアブル

[500~600倍 収穫14日前まで/3回以内]

**ペンコゼゴ**水和剤 [600倍 収穫14日前まで/3回以内]

**シマン**水和剤 [600倍 収穫14日前まで/3回以内]



予防剤を **ローテーション散布**

F: M05(M) **ダコニール1000**

[1000倍 収穫14日前まで/3回以内]

発病が認められたら

F: 3(G1)

I: UN,

F: M03(M)

**テーク**水和剤

[サンリット+マンゼブ]

[600倍 収穫14日前まで/3回以内]

F: 11(C3) **アミスター<sup>®</sup>20**  
フロアブル

[2000倍 収穫3日前まで/4回以内]

**メジャー**フロアブル

[2000倍 収穫前日まで/3回以内]

治療剤を加えた**ローテーション散布**

F: 40(H5)

F: M05(M)

**プロポーズ**

顆粒水和剤

[マモロット+ダコニール]

[1000倍 収穫14日前まで/3回以内]

F: U17(U)

**ピシロック**フロアブル

[1000倍 収穫前日まで/3回以内]

F: 4(A1)

F: M05(M)

**フォルオゴールド**

[リトミル+ダコニール]

[800~1000倍 収穫14日前まで/3回以内]

F: 40(H5)

**レーバス**

フロアブル

[2000倍 収穫7日前まで/2回以内]

ジェネティックだから  
低コスト!!

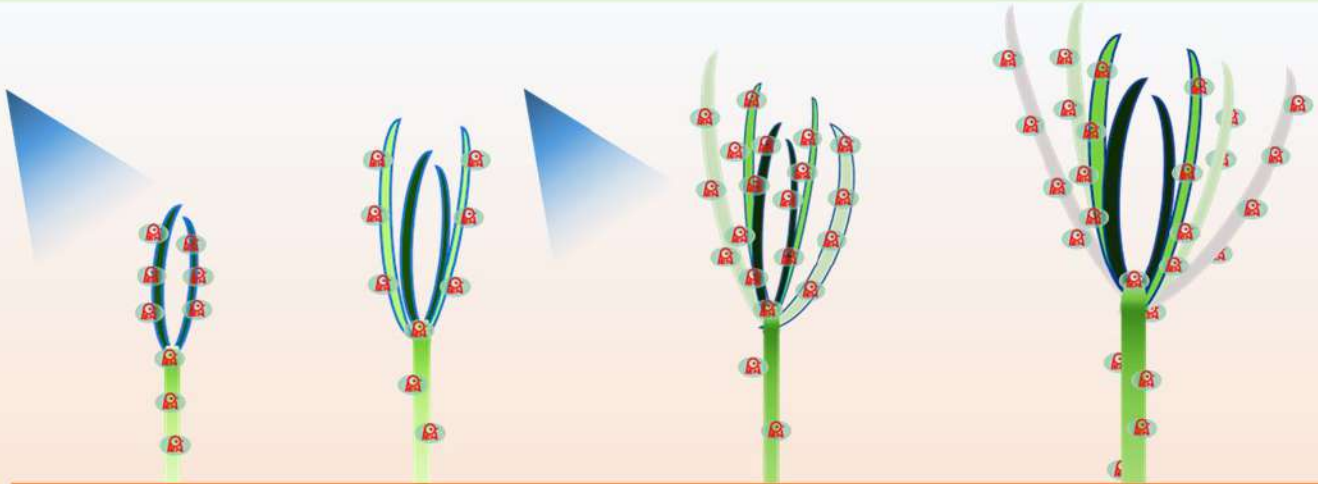
ねぎのべと病対策に!



ペンコゼブ 水和剤

ペンコゼブ フロアブル

ねぎの新しい葉はべと病に高い抵抗性がある。新しい葉が出ると次葉の抵抗性は低下し、下位葉ほど罹病化がすすむ。



散布された **ペンコゼブ** (マンゼブ剤) はねぎ表面のクチクラ層やワックス層に付着。浸透移行性がないため有効成分の移動はない。新規葉が抽出するたびに下位葉は罹病化するが **ペンコゼブ** (マンゼブ剤) の保護層によりべと病菌の侵入は阻止される。

べと病菌は雨滴の中を遊走子で移動し作物に感染します。最も罹病性が高い下葉に感染を試みますが

**ペンコゼブ** (マンゼブ) の効果により感染できません。

